

各分野における内容は改善されるのか。

(地理的分野における主な改善の要点)

1 内容構成についての見直し

【 現 行 】

「(1) 世界と日本の地域構成」
「(2) 地域の規模に応じた調査」
「(3) 世界と比べて見た日本」



【 新 】

「(1) 世界の様々な地域」
「(2) 日本の様々な地域」

2 世界に関する地理的認識の重視

中教審答申の「世界の地理や歴史に関する内容の充実」や学校教育法の「進んで外国の文化の理解を通じて、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う」を受け、グローバル化が進展し、地球温暖化等の環境問題が深刻化する状況を踏まえ、世界の諸地域の地域的特色を学ぶ項目を設けて、世界に関する地理的認識の育成を重視することとした（世界の諸地域の地域的特色について主題を設けて行う学習の項を参照）。

3 動態地誌的な学習による国土認識の充実

日本の諸地域学習においては、諸地域の単なる地誌的知識の習得に偏重した学習に陥ることがないようにするために、日本全体について任意に地域区分した上で、それぞれの地域の特徴ある事象を中核として、それを他の事象と有機的に関連付けて、地域的特色を動的にとらえさせることとした（日本をいくつかの地域に区分し、それぞれの地域について、様々な考察の仕方を基にして、地域的特色をとらえさせる学習の項を参照）。

4 地理的技能の育成の一層の重視

地図の活用を中心とした地理的技能の育成を一層重視するとともに、地図の読図や作図などの学習活動を充実を通して、言語活動の充実を図る。

5 社会参画の視点を取り入れた身近な地域の調査

教育基本法や学校教育法の「公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと」や社会科の目標「公民的資質の基礎を養う」ことを踏まえ、「身近な地域の調査」の中で、社会参画の視点を取り入れた調べ学習を行うこととした。

(歴史的分野における主な改善の要点)

1 「我が国の歴史の大きな流れ」を理解する学習の一層の重視

中教審答申が示す基礎的・基本的な知識，概念や技能の習得の重視という趣旨を踏まえて，「我が国の歴史の大きな流れ」を理解するための学習を一層重視した。

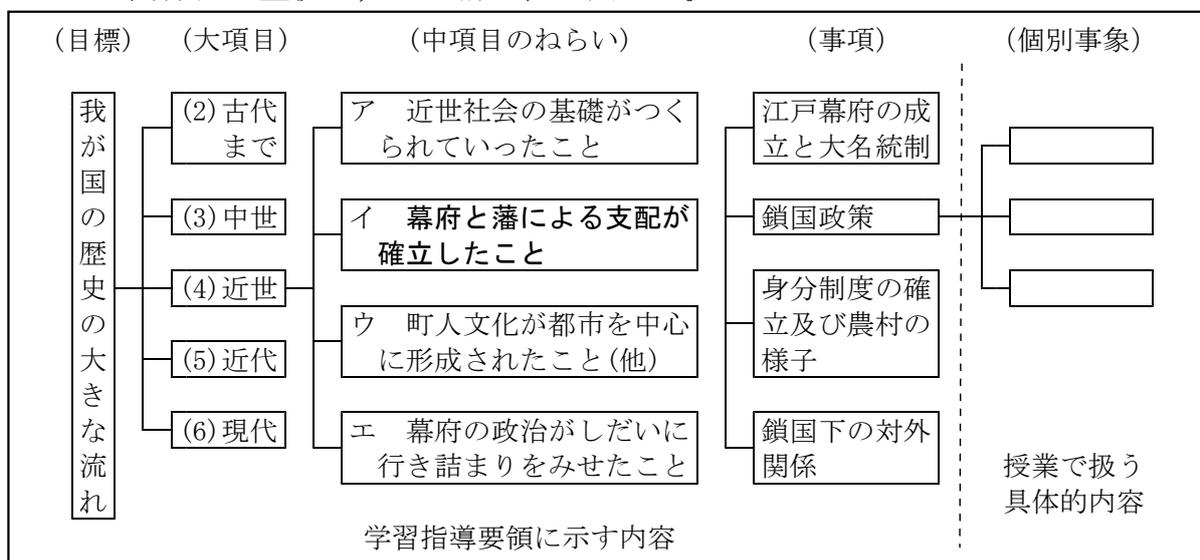
(1) 学習内容の構造化

各事項の学習を通してより大きな歴史の流れを理解させるように，学習内容を構造化してとらえるとともに，各項目で理解すべき学習の焦点を明確に示すようにした。

- ・ 内容のすべての中項目で共通に「〇〇，〇〇などを通して，AがBであったことを理解させる」という表現を用いた。

例 江戸幕府の成立と大名統制，鎖国政策，身分制度の確立及び農村の様子，鎖国下の対外関係などを通して，江戸幕府の政治の特色を考えさせ，**幕府と藩による支配が確立したことを理解させる。**

- ・ 各事項の学習を重ねることで中項目ごとの学習のねらいが達成され，さらにそれら大観することで大項目全体の特色がつかめるという学習内容同士の関係性を重視し，その構造化を図った。



(2) 各時代の特色をとらえる学習の新設

「学習した内容を活用してその時代を大観し表現する活動を通して，各時代の特色をとらえる学習」を新設した。

(3) 古代までの学習の大観化

従前の「古代までの日本」の中項目を，我が国の古代までの特色大きくとらえさせる観点から一つにし，三つの中項目から構成した。

2 歴史について考察する力や説明する力の育成

中教審答申が示す言語活動の充実という趣旨を踏まえて、時代の特色や時代の転換について考えたり表現したりする学習を行うようにした。

- 政治面などの変革の特色を考えて時代の転換の様子をとらえる学習
内容の「(3) 中世の日本」から「(6) 現代の日本と世界」の各大項目の前半に、政治面などの変革の特色を考えて時代の転換の様子をとらえる学習を設けた。
- 時代の区分やその移り変わりに気付く学習
歴史的分野全体の導入として、歴史上の人物や出来事などについて調べたり考えたりして時代の区分やその移り変わりに気付く学習を設定した。

これらの学習の中で、



思考・判断や表現などの活動を通じて、歴史について考察する力や説明する力を育てる学習や学習内容についての理解や認識を一層深める学習を行う。
(言語活動の充実にかかわって、このような学習が重視されている。)

3 近現代の学習の一層の重視

【 現 行 】

「近現代の日本と世界」



【 新 】

「近代の日本と世界」

「現代の日本と世界」

- 近現代の学習を一層重視し、現代の社会についての理解が深まるように配慮した。

4 様々な伝統や文化の学習の重視

「身近な地域の歴史を調べる活動」において、具体的な事柄を通して受け継がれてきた伝統や文化への関心を高めるようにした。それとともに、各時代の文化をはじめとする学習において、伝統や文化の特色の理解につながるような学習内容を一層重視した。

5 我が国の歴史の背景となる世界の歴史の扱いの充実

- 我が国の歴史の大きな流れの理解のために、その背景となる世界の歴史の扱いを充実させた。

例えば、



- ・ 世界の古代文明や宗教のおこりに関する学習を充実させる。
- ・ 近現代の欧米諸国のアジア進出を独立の中項目として構成する。
- ・ 第二次世界大戦後の学習内容に冷戦やその終結を位置付ける。
- ・ 国際関係が重きを占める近現代の学習を重視する。

(公民的分野における主な改善の要点)

1 現代社会の特色や、現代社会における文化の意義や影響に関する学習の重視

現代日本の社会に対する関心を高め、以後の学習のより一層の理解を図るため、現代社会の特色についての学習を設けることとした。また教育基本法などの改正を受け、伝統や文化に関する学習の充実、宗教に関する一般的な教養について、次のような内容の改善を図った。

- (1) 「私たちが生きる現代社会と文化」を新たに設け、現代日本の社会の特色として少子高齢化、情報化、グローバル化などがみられること、これらが政治や経済、国際関係などにおいてどのような影響を与えているのかということについて学習させるようにした。
- (2) 同じ中項目において、現代社会における文化の意義や影響について理解させるとともに、我が国の伝統や文化に関心をもたせるようにした。
- (3) 「世界平和と人類の福祉の増大」でも、国際社会における文化や宗教の多様性について指導することとした。

2 現代社会をとらえる見方や考え方の基礎を養う学習

- 内容の「現代社会をとらえる見方や考え方」の設定



政治や経済などについての見方や考え方の基盤となる概念的枠組みを形成するため、対立と合意、効率と公正などを取り上げ、現代社会をとらえる見方や考え方の基礎を養う学習を重視する。

3 現代社会をとらえる見方や考え方の基礎を生かした内容構成

- 「私たちと現代社会」の学習は公民的分野の導入と位置付け、「私たちが生きる現代社会と文化」、「現代社会をとらえる見方や考え方」の順で行う。



現代社会の特色などや、現代社会をとらえる見方や考え方の基礎として、対立と合意、効率と公正などの見方や考え方があることを理解させる。

- 「私たちと経済」、「私たちと政治」、「私たちと国際社会の諸問題」の「世界平和と人類の福祉の増大」の学習



対立と合意、効率と公正などの見方や考え方をを用いて、政治、経済、国際関係に関する諸事象をとらえさせ、これらの見方や考え方を深めるとともに、諸事象の理解をより一層深めさせる。

- 社会科のまとめとして内容の「より良い社会を目指して」の設定



課題を探究させる際に、対立と合意、効率と公正などの見方や考え方を活用させる。

4 社会の変化に対応した、法や金融などに関する学習の重視

社会の変化に対応した法や金融などに関する学習については次のように改善を図った。

- 「現代をとらえる見方や考え方」の学習



きまりの意義について考えさせ、また契約の重要性やそれを守ることの意義及び個人の責任について気付かせる。

- 「市場の働きと経済」の学習



金融の仕組みや働きを扱い、その意義や働きについて理解させる。

- 「人間の尊重と日本国憲法の基本的原則」の学習



法によって基本的人権が保障されるという考え方を理解させることをより明確にした。

○ 「民主政治と政治参加」の学習



裁判員制度についても触れることとした。

5 課題の探究を通して社会の形成に参画する態度を養うことの重視

持続可能な社会を形成するという観点から課題を探究させ、自分の考えをまとめさせることをねらいとして内容の「よりよい社会を目指して」を今回新たに設けた。

この中項目は、社会科のまとめという位置付けとし、公民的分野はもとより、地理的分野、歴史的分野などの学習の成果を生かし、これからのよりよい社会の形成に主体的に臨む態度を養うこととした。